



平成28年4月28日

各 位

上場会社名 株式会社ユーラシア旅行社
 代表者 代表取締役社長 井上 利男
 (コード番号 9376)
 問合せ先責任者 取締役管理部長 出口 桂太郎
 (TEL 03-3265-1691)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成27年11月6日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成28年9月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成27年10月1日～平成28年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,880	35	35	23	6.23
今回修正予想(B)	2,514	△1	1	△4	△1.08
増減額(B-A)	△366	△36	△34	△27	
増減率(%)	△12.7	—	△97.1	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年9月期第2四半期)	2,871	△81	△91	△67	△18.41

平成28年9月期通期連結業績予想数値の修正(平成27年10月1日～平成28年9月30日)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,380	180	190	126	34.15
今回修正予想(B)	5,459	54	66	38	10.30
増減額(B-A)	△921	△126	△124	△88	
増減率(%)	△14.4	△70.0	△65.3	△69.8	
(ご参考)前期実績 (平成27年9月期)	5,970	40	36	16	4.37

修正の理由

(1) 第2四半期累計期間の業績予報

1. 営業収益

当社では、前期(平成27年9月期)において、日本人拘束及び殺害事件をはじめとするISIL(いわゆる「イスラム国」)の過激な活動によって、イスラム諸国及びISILの活動が連想される地域で当初計画していた旅行の催行取りやめ等の需要減の影響を強く受けました。

そのため、当社では、それを前提として、イスラム諸国及びISILの活動が連想される地域での顕著な需要減の影響は一定期間の継続をすと想定し、平成27年11月6日に公表いたしました期初予想では第2四半期累計期間における営業収益を前期(2,871百万円)並みの2,880百万円と想定いたしました。

しかしながら、当第2四半期累計期間において、平成27年11月にパリ同時多発テロ事件が、平成28年3月にベルギーテロ事件が新たに発生し、「ISILの活動が連想される地域」としてこれまでのイスラム圏だけでなくフランス及びベルギーの欧州圏も強く想起されることとなり、これらの地域への旅行の一時的かつ急激な手控えが起こる結果となりました。

これによって第2四半期累計期間における営業収益の予想値を2,514百万円に修正し、期初予想比で366百万円の未達が想定される状況となりました。

2. 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益

営業収益の目標未達の影響を受けて、粗利益ベースでは60百万円程度の未達が想定されることとなりました。

そのため、当社では、当第2四半期累計期間を通じて経費の縮減に努めましたが、営業利益において36百万円、経常利益において34百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益において27百万円の未達が想定される状況となっております。

(2) 通期の業績予想

1. 営業収益

当社では、前期(平成27年9月期)に発生したイスラム諸国及びISILの活動が連想される地域での顕著な需要減は、当期においても継続するものと想定していました。

ただし、当社では、当期の下半期以降については、国連を中心とする世界各国の連携により、徐々にその活動は沈静化、局地化していくものと考え、イスラム諸国及びISILの活動が想定される地域での需要について、前期(平成27年9月期)下半期の著しい減少と比較して一定程度回復するものと想定していました。

そのため、それを前提として、平成27年11月6日に公表いたしました期初予想において、当期の下半期における営業収益をISILの過激な活動が局地化した地域に未だとどまっていたと考えられていた前々期(平成26年9月期)の下半期(3,527百万円)並みになると想定して、3,500百万円と予想いたしました。

しかしながら、当第2四半期累計期間において、平成27年11月にパリ同時多発テロ事件が、平成28年3月にベルギーテロ事件が新たに発生し、「ISILの活動が連想される地域」としてこれまでのイスラム圏だけでなくフランス及びベルギーの欧州圏も強く想起されることとなり、これらの地域への旅行の一時的中断かつ急激な手控えが起こる結果となりました。

そのため、需要の回復基調が当初想定より遅れたものとなったため、当期下半期における営業収益の予想値を、前期(平成27年9月期)下半期(3,099百万円)と比べて5%減となる2,945百万円に変更いたします。

これによって通期の営業収益の予想値を5,459百万円に修正し、当初予想比で921百万円の未達が想定される状況となりました。

2. 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

通期の営業利益を921百万円減額したことに伴い、下半期における粗利益について、平成27年11月6日に公表いたしました期初予想に比べて90百万円減少すると想定しました。

そのため、営業利益及び経常利益について、それぞれ期初予想値から同額を減額いたしました。

(注)上記業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上